

平成 21 年 1 月 1 日

昨年 12 月よりインフルエンザ患者が全国で増加し、過去 10 年で 2 番目に早い時期での流行入りとなりました。流行のピークは例年、1 月下旬から 2 月上旬で、厚生労働省は「ワクチンの接種や手洗い、うがいなど予防に努めてほしい」と呼びかけています。今回は「インフルエンザワクチン」について紹介したいと思います。

### Q1 インフルエンザ予防接種に望ましい時期はいつですか？

インフルエンザの流行は 1 月上旬から 3 月上旬が中心であること、ワクチン接種による効果が出現するまでに 2 週間程度を要することから、毎年 12 月中旬までにワクチン接種を受けることが望ましいと考えられます。



### Q2 インフルエンザワクチン接種後の免疫の持続は、どのくらい続くのでしょうか？

接種 1～2 週後に抗体が上昇し始め、1 ヶ月後までにはピークに達し、3～4 ヶ月後には徐々に低下傾向を示します。したがって、ワクチンの予防効果が期待できるのは接種後 2 週から 5 ヶ月程度と考えられています。

### Q3 インフルエンザワクチンを毎年継続して接種する理由は？

インフルエンザウイルスは毎年のように変異しながら流行しますので、ワクチンは毎年そのシーズンの流行にあわせたものが製造されます。また、現在のインフルエンザワクチンの発症予防効果はおよそ 5 ヶ月程度とされていますので、毎年の継続接種が必要です。

### Q4 インフルエンザワクチンの接種回数

- ・ 65 歳以上および基礎疾患を有する 60～64 歳は 1 回接種。
- ・ 13 歳以上 60 歳未満は 1 回または 2 回とされ、接種医の判断にゆだねられていますが、一般的には 1 回の接種で十分であるとされています。
- ・ 年少児では 1 回の接種では十分な免疫が得られないため、わが国では 13 歳未満の接種回数は 2 回となっています。また、より免疫効果を高めるためには、3～4 週間隔で接種することが最適です。



### Q5 インフルエンザワクチンの効果

ワクチンの効果は約 70～80%程度、就学前の小児では 20～30 程度といわれており、ワクチン接種を受けた人であっても、インフルエンザにかかることがあります。

### Q6 インフルエンザワクチンの接種によってインフルエンザを発症することはありますか？

インフルエンザワクチンは不活化ワクチンなので、ワクチンそのものには病原性はありません。ワクチン接種によってインフルエンザを発症することはありません。

### Q7 インフルエンザワクチン接種後の注意事項

- 1) 接種後 30 分間は接種医のもとで様子を観察します。アナフィラキシーショックなどの副反応の大半はこの間に起きます。
- 2) 1 週間は副反応の出現に注意しておきましょう。
- 3) 入浴は発熱などがなければ差し支えありません。
- 4) 接種当日はいつもどおりの生活でかまいませんが、はげしい運動（たとえば水泳、マラソンなど）は避けましょう。



### Q8 インフルエンザワクチンの接種によって引き起こされる症状(副反応)にはどのようなものがありますか？

比較的頻度が高い副反応としては、接種した部位(局所)の発赤・腫脹、疼痛などがあげられます。全身性の反応としては、発熱、頭痛、悪寒、倦怠感などが見られます。また、まれに、ワクチンに対するアレルギー反応(発疹、じんましん、発赤と掻痒感)が見られることがあります。

接種局所の発赤、腫脹、疼痛は、接種を受けられた方の 10～20%に起こりますが、2～3 日で消失します。全身性の反応は、接種を受けられた方の 5～10%にみられ、2～3 日で消失します。

#### <参考>

- ・ <http://www.mhlw.go.jp>  
厚生労働省>健康>感染症情報>インフルエンザ  
インフルエンザQ&A
- ・ 予防接種に関するQ&A集 2008(平成 20 年) 社団法人 細菌製剤協会